

## 第3回 芽室町環境審議会 議事録

日時 令和6年3月27日(水) 15時30分～17時00分

場所 めむろーど3階 レファレンス室

### ○会議次第

1 開 会

2 会長挨拶

3 報告事項

(1) 令和5年度環境調査結果について

(2) 芽室町一般廃棄物処理基本計画(ごみ処理基本計画)進捗状況について

4 協議事項

(1) ごみ減量化・資源化への取組について(令和6年度実施事業)

(2) 芽室町地球温暖化防止実行計画(区域施策編)の策定について

5 その他

6 閉 会

### ○出席委員(敬称略) 9名

貫田 正博、稲垣 輝幸、阿部 浩、佐藤 三千子、砂金 新一、大塚 玲奈、  
福間 智子、村瀬 雅道、池田 敦志

### ○欠席委員(敬称略) 5名

横田 聡、鈴木 昭博、大原 卓也、井上 貴明、後藤 勝幸

### ○傍聴人

0人

## ○町側出席者

橋本 直樹 環境土木課長  
齋藤 和也 環境土木課参事  
久保田伸也 環境土木課生活環境係長  
中村 勢太 環境土木課生活環境係主事

## ○会議要旨

### 3 報告事項

#### (1) 令和5年度環境調査結果について

久保田係長から資料に基づき報告。委員からの質問等は特になし。

#### (2) 芽室町一般廃棄物処理基本計画（ごみ処理基本計画）進捗状況について

久保田係長から資料に基づき報告。委員からの質問等は特になし。

### 4 協議事項

#### (1) ごみ減量化・資源化への取組について（令和6年度実施事業）

久保田係長から資料に基づき説明。質疑応答は次のとおり。

### 【質疑応答】

**阿部委員：**資源ごみの分別が一番難しい。自宅前のごみステーションに、ダメごみとして一番置いて行かれるのが資源ごみ。高齢者は特に分別が大変だと思う。個人情報のこともあり難しいかもしれないが、排出するごみ袋に名前や番号を入れるなど、排出者が特定できて、自分の出したごみに対して責任が持てる仕組みがあればと思う。

**佐藤委員：**物価上昇が気になっていることもあり、無駄が出ないように買い物をするよう心掛けています。食品を購入するときも、できるだけ無駄な包装のないものを購入しようと思っている。トレーが要らない食品もあると思う。

スーパーのバックヤードを見学したことがあるが、包装機器の更新にも費用がかかるとのことだった。機器更新に補助金を出すなどの取り組みは考えられるのではないか。

**貫田委員長：**コンポストの補助があったと思う。

**事務局：**これまで団体が行っていた補助事業だが、令和5年度から町の事業として実施している。

**砂金委員**：ビンやペットボトルで販売されているものが多く、ごみが増えていると感じる。指定ごみ袋が高いからなのか分からないが、スーパーで買い物をした際に、購入した商品の包装を外してスーパー内のごみ箱に捨てていく人も見かける。駐車場にごみが捨てられることもある。

**大塚委員**：後志管内の自治体では、サッポロドラックストアとの連携で災害備蓄品のランニングストック方式※を採用しているところもある。芽室町でも保存期間が過ぎたものを捨てるのではなく保存期限を考慮しながら循環させる取り組みを行ってはどうか。

#### 【※ランニングストック方式】

自治体が購入した防災備蓄品を、防災倉庫等に保管するのではなく、事業者の物流拠点に寄託し、事業者はそれを販売用在庫としながら流通させて管理・保管する。災害時には自治体の返還要求により払い出す。

防災備蓄品の保管場所の不足や、長期保存による消費期限切れによる廃棄などの課題解決が期待される。

**池田委員**：ごみ分別・排出に関する委員の意見に同意。自宅前にごみステーションがあるが、ダメごみとして一番多いのはその他プラスチック容器ごみである。ごみを排出した本人も、自分のごみだと気づかず回収に至らず、さらに次の資源ごみの排出日に、残されたダメごみの上に新たなごみ袋が置かれて、またダメごみは回収されないという悪循環が生じている。一方で、ごみの所在を特定するために氏名を張り出すのは難しいとは思う。アイデアになるが、QRコードやバーコードなどを用いて、ダメごみの通知が本人に行くような仕組みはどうか。

また、生ごみはバイオ燃料など循環資源として活用できる。生ごみだけを分別回収するというのも考えられる。いずれのアイデアもコストなどは課題になるとは思う。

**村瀬委員**：資料19ページに旭川市の取り組み（ごみ減量等推進優良事業所認定制度）が掲載されているが、この取り組みでどのような成果が出るのかイメージしにくい。仮に芽室町でこの制度を導入しても、ごみの分別が促進される効果は出るかもしれないが、ごみの総量は減らないのではないか。

**福間委員**：ごみの分別がLINEで検索できるようになるのは良いことだと思う。分別方法を調べるにあたり、ごみの名前が分からない場合がある。特に分別に困りそうなものをピックアップした資料があると良いと思う。以前住んでいた自治体では、ご

み分別の説明会が行われていた。定期的にそのような催しがあると良いと思う。

**貫田委員長**：ごみ分別の手引きがあったと思うが。

**事務局**：ごみ分別手引きはあるが、平成31年度版を作成して以降、内容が変わっていない。現在では分別方法が変わっている物もあることから、内容を精査した上で令和6年度版の『めむろごみ分別手引き』を発行する予定。

**貫田委員長**：細かく分別方法が決められているため、分別方法が分かりやすくなる取り組みはどんどん進めていかなければならない。より親切に、町民が分かりやすくなる方向性で取り組んでいてもらいたい。

**稲垣副委員長**：ごみ分別手引きで調べる際、ごみの分別区分ごとに表記されている。ごみの品名から分別方法を逆引きできるようにならないか。

**事務局**：ごみ分別手引きでは、まずごみの種類からお知らせするよう作成しているところ。一方で、町民の方にしてみれば、分別が分からないごみがどの区分なのか、ごみの品名から分別区分を知りたいというのは委員の御指摘のとおりと思う。検索するツールで周知方法を変えるなど、工夫したい。

**佐藤委員**：くりりんセンターが新しくなる際には、焼却炉の規模は大きくなるのか。他自治体では、焼却炉の能力によってごみの分類が変わっている。沖縄県の自治体ではプラスチック製の浴室用イスが燃やすごみだった。

**事務局**：現時点において、製品プラスチックは「燃やすごみ」になる見込み。

**佐藤委員**：今までと分別方法が変わるのであれば、しっかりとした周知が必要。高齢者などは混乱すると思う。

**事務局**：プラスチック製のものは特に分かりにくい。周知はしっかりと行っていきたい。

**村瀬委員**：製品プラスチックが燃やすごみになるとのことだが、分別が楽になってほしいと思う一方で、リサイクルできるものはしていきたいという思いもある。

**貫田委員長**：製品プラスチックの取り扱いは将来的な課題である。現段階では、分別が大変・分かりにくいといった現在の課題について解決策を検討していただきたい。

**事務局**：分別方法の問い合わせが多いごみについては、広報誌に『エコなび通信』という記事で発信しているが、ホームページの充実や LINE 公式アプリの活用など、町民の皆さんの目につくような周知を行っていききたい。

**貫田委員長**：町内会等で役場に出前講座を依頼することは可能か。

**事務局**：可能である。団体に対して出前講座の存在をアピールしていききたい。

**貫田委員長**：町内会に加入していない町民に対してもアピールしていくことで、町内会未加入者に町内会の意義を理解いただく機会になり、町内会加入促進につながるかもしれない。多角的な効果を得られる施策を検討していただければと思う。

## (2) 芽室町地球温暖化防止実行計画（区域施策編）の策定について

齋藤参事から資料に基づき説明。質疑応答は次のとおり。

### 【質疑応答】

**貫田委員長**：緑肥・たい肥に関しては芽室町農業協同組合から補助金が出ており、取り組みは進んでいる実態がある。

**村瀬委員**：排出量 48%削減は現実的には難しいのではないかと思うが、取り組む姿勢は見せていかなければならない。資料ではスマート農業の推進やバイオマスの導入という取り組みが挙げられているが、こういった取り組みが現実的なのだろうかと思う。

**事務局**：排出量 48%削減という目標設定ではあるが、そのすべてを町民や事業者による取り組みだけで削減しようというものではない。再生エネルギーの導入やさらなる再エネの取り組みにより二酸化炭素排出量が大きく減少する。町として 2030 年までに削減すべき二酸化炭素排出量は約 18,000 t-CO<sub>2</sub>、さらにバイオマス・小水力発電などの導入済み・導入予定の再生可能エネルギーも含むので削減目標達成の可能性は大きくなる。北海道が示す家庭での省エネ行動による 1 世帯あたり 1.2 t の削減ができれば、芽室町約 8,000 世帯の省エネ行動実施により、約 9,000 t-CO<sub>2</sub> の削減が見込める。これらの取り組みを複合的に行えば、実現不可能な目標ではない。生活を切り詰め、我慢しながら取り組むのではなく、みんなで楽

しく取り組めるよう周知をしながら進めていきたい。

**福岡委員**：家庭での取り組みは、ちりも積もれば山となる。広く周知して実行してもらえればと思う。説明の中で、二酸化炭素の吸収について話があったが、森林を増やすなどして吸収量を増加させることはできないのか。

**事務局**：近年、町内の私有林が減少傾向である。伐採と植樹のサイクルをうまく構築できれば、森林による吸収量を維持していくことができる。また、緑肥の作付け・すき込みによる二酸化炭素吸収は将来的な可能性が望める。その他街路樹などからの二酸化炭素吸収などもあり、吸収方法については今後も追及していきたい。林業が盛んではない地域だが、木材の2次活用なども重要な取り組みと考えている。

**村瀬委員**：資料32ページから記載されている、家庭での取り組みについては、町民が分かりやすいと感じる。「節約」という言葉は興味を持ってもらえるのではないか。具体的にどれくらいの金額がお得になるか示されれば、モチベーションの向上につながると思う。

**池田委員**：全員で協力すれば、大きな削減も夢ではないということが分かった。弊社は産業部門の排出量の多くを占めているため、削減努力は必要と感じている。排出量の削減目標には原単位目標と総量目標※とがあり、国に求められているのは総量目標である。総量目標の達成はハードルが高く、もっと思い切った策を取らなくてはならないと感じている。

#### 【※原単位目標と総量目標】

**原単位目標**：生産物1つにつき排出する二酸化炭素を削減する目標

**総量目標**：工場や企業全体で実際に排出される二酸化炭素を削減する目標

◇原単位目標を達成しても、生産数を増やせば二酸化炭素排出量が増え、総量目標の達成までのハードルは高くなるといった関係。

**大塚委員**：家庭での省エネ行動では、まだ取り組めていないものもあり、削減に貢献していきたい。

**砂金委員**：廃棄物の循環というのはよい取り組みだと思う。

**佐藤委員**：酪農家が少ない中、環境調査にて大腸菌が基準値を上回っているのは、家畜ふん尿の処理に課題があるのではないかと思う。うまくふん尿を回収し、鹿追町まで

運搬するなどすることができれば、資源化ができるかもしれない。

また、芽室町内の大きな木が減っている印象を受ける。防風林などが並んでいる景観は芽室らしいものだと思う。農家にとっても農機運用との兼ね合いで難しいのかもしれないが、太陽光パネルの設置だけではなく、景観を守りながら取り組みを進められないかと思う。町内会で管理している花壇についても、近年は花壇整備に参加する人が減少している。花ではなく観葉樹にすれば管理が楽になるのでは。

**阿部委員**：新工業団地の開発など、既存の事業との兼ね合いなどの障害は出てくると思うので、どう折り合いをつけるかは考えていく必要があると思う。環境教育については、イベント実施などで子どもたちに教えてあげる機会を作ってほしいと思う。

**貫田委員長**：2030年に向けて、次の世代につなげる環境教育を検討していただきたい。

## 5 その他

事務局より事務連絡

## 6 閉会

17時00分閉会